



特定非営利活動法人(NPO)

インド福祉村協会

会報
2001.4.1
Vol.6

India Welfare Village Society News

2001年は
国際ボランティア
ア年です。皆様
のご支援を切
にお願い申し
上げます。



(グプタ医師日本での研修)

インド福祉村病院(アーナンダ病院)は開院二周年を迎えました。一方協会は特定非営利活動法人として認可されました。これも日本とインドの多くのの人々に支援して頂いたお陰だと、深く感謝致しております。

開院二年目は、年間で二万二千名(二年目より六千名増加)もの患者さんが来院し、地域での信頼も更に大きくなっております。

P.N.グプタ医師は昨年4月に日本で研修を行い、ますます意欲的に診療しております。

プライマリーケアのほかに、結核治療や妊婦相談、保健衛生活動も進展しております。本年度は「更なるレベルアップ」を行うこととしております。

インド福祉村病院 協会
開院二周年・NPO法人認可
クシナガラ(北インド・UPP州) 2000年11月2日



(診察を待つ患者さん達)

インド福祉村病院は、開業からわずか二年ですが、患者さんが四万人を超えるほど、地元の皆様にご信頼されご利用いただいております。

インドは典型的な男性社会ですから、女性は病気になっても、なかなか医者にはかかれません。しかし当院では、患者さんの約六十五%が女性ですから、施療病院としての役割を充分に果たしていると考えられます。

今後とも、医療水準向上のため医療機器の充実に努めるとともに、乳児死亡率を下げるための母子保健と結核の予防に力を入れて行きます。

インドの人々の幸せと健康を守るために、これからもよろしくご支援を賜りますようお願い致します。

三年目を迎えて

理事長 山本 孝之(福祉村病院院長)

一周年のあゆみ

医師 P.N.グプタ



(P.N.グプタ)

一年目は夢中で診察していましたが、二年目は少しずつレベルアップを目標に、親切、丁寧な診察を心がけてまいりました。

従来のインド式診療(部落の人々)はちよつと訴えを聞いて処方を書き、この薬を飲みなさいでおわつてしまうことが多いのです。

部落の人々は①折祷師に病を載ってもらう

②アーユルベダー(インドの古典医療)を受ける

③最後に西洋式医療を受けることが多いため、患者さんの来院が遅れてしまいます。発熱したら早くアーナンダ病院に来るよう指導を心がけております。秋、冬、春の乾季は患者さんが少ないのですが、酷暑と雨季には一日百名以上の患者さんが押しかけ、職員も疲労する程でした(ラララ参照)。

4月に日本を訪問したときは、最新医療の現場を見学し、エコーや胃カメラの研修を受けました。幸運にも美しい桜が満開で、素晴らしい日本の春も体験することができました。今回の訪問は、私の人生で忘れることはありません。

宿泊の手配から案内まで、心暖かいもてなしをして下さった関係者の皆様に、心より御礼申し上げます。今後ともアーナンダ病院へのご支援をお願い致します。

【風土病的疾病】

- 1) フィラリア症
- 2) マラリア
- 3) チフス
- 4) らい(ハンセン氏病)
- 5) カラアザール
- 6) 日本脳炎
- 7) アメーバ赤痢
- 8) 甲状腺腫
- 9) 狂犬病
- 10) 蛇毒

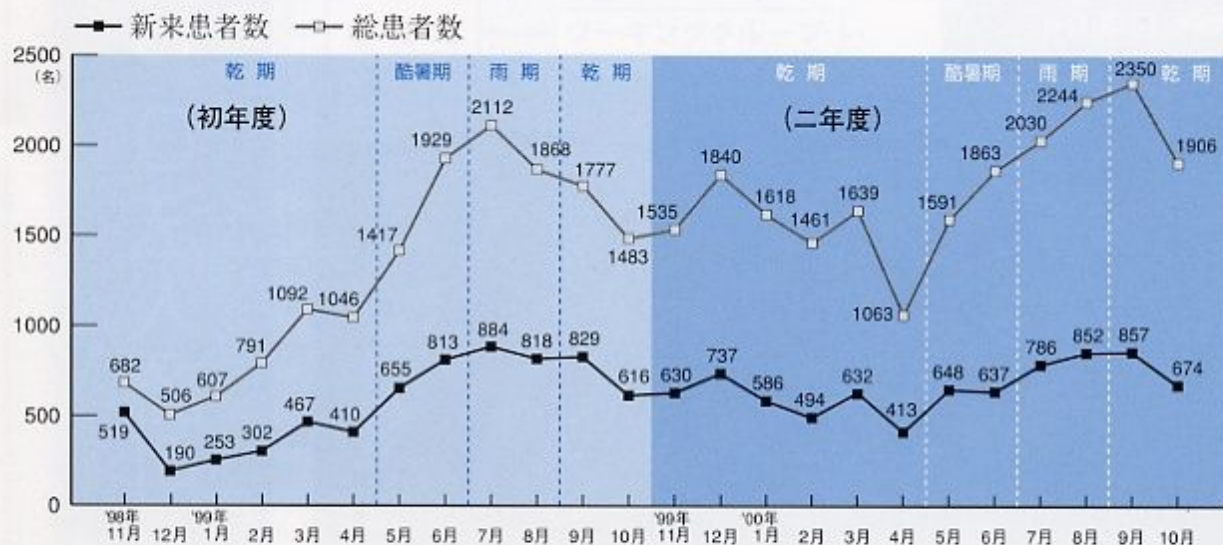
【患者数】

	1年目	2年目
総患者	15311名	21140名
新来患者	6759名	7946名
再来患者	855名	13203名
男性 36%	女性 64%	子供 10%



(福祉村病院歓迎会)

患者数の推移



【現地住所】

ANANDA HOSPITAL
SIRASIA NEAR KUSHINAGAR
274403 UP INDIA

1998年11月に診療を開始してから二年。今日までに延べ約四万名の患者さんが来院し、治療を行うことができました。これもご支援くださった有縁の方々のお陰と、心から感謝申し上げます。グプタ医師をはじめ、スタッフ全員の努力もあり、病院に対する地域の人々の信頼は厚く、さらなる病院機能の充実を期待しております。本当にこの地に病院を建設してよかったですと痛感しております。

また、今日までに外務省のご支援により最低限の基本的な医療機器を整備することができました。従来全く手付かずであった結核の治療に対しては、郵政省国際ボランティア貯金に係る寄附金の配分を受けることが出来ました。さらにトヨタ財団より救急車を寄贈していただきました。ここに改めて御礼申し上げます。しかしながら、これから行わねばならない課題は山積です。例えば衛生教育、生活改善等々です。皆様方にこれまで以上のご支援、ご助言を切にお願い申し上げます。

合掌

一年余を経過して
常務理事 柴田昌雄(愛知学院大学前教授)

宿泊 ボランティア・レポート 抜粋

■清水 潔（愛知県立大学教授・医師）

グプタ医師はよく勉強している臨床医だと思えます。部落では元気な子供達がたくさん寄ってきて、みんな目が輝いておりました。衛生状態はよくありませんが、日本の子供のように温室育ちと違うたくましさを感じました。この地域に必要なのは公衆衛生教育の充実でしょう。

■折戸 雅恵（日赤愛知短大 学生）

「この病院を発展させていくことは自分への挑戦だ」とおっしゃるドクターは、とても頼もしく思えました。人なつこく、たくましく生きていく子供達の、キラキラ輝く瞳がとても印象的でした。陽気なスタッフに囲まれ毎日が笑いの絶えない日々でした。

■森 さやか（日赤愛知短大 学生）

必要なのは日本の看護の押し付けではなく、現地の人々への深い理解と思いやりでしょう。生活、経済状況をよく知ってからの、衛生教育、医療の提供でしょう。行って初めて気付くことがたくさんあります。行かなければ気付けません。ボランティアを通じて、できるだけ多くの人に気付いてもらいたいなあ……

■安藤 美保（看護婦）

今回初めてインドに滞在し、カルチャーショックを受けました。子供から大人まで好奇心が旺盛で、興味があるものは積極的に近づく姿は、自然な人間味を感じました。物質主義の我が国は何を見ても感激せず、知らないことを知らうという意欲も弱く、人間らしさが失われつつあります。インドの人々の、互いを尊重し、人として接する姿がとても美しいと感じました。衛生教育はビデオを待合室で流すと良いでしょう。

■小松 久恵（大阪外大 大学院）

スタッフは皆フレンドリーで大きな家族のようでした。村ではドクターや看護婦及び職員が尊敬され「地域との一体化」が進んでおりました。スタッフの誠実な努力の賜物でしょう。農村社会は道も悪く、下水処理が自然に任せられているため蚊や蟻が群生します。電気も電話もなく機能的な日本とは大きくかけ離れた世界でした。



(診察中)



(診察室前)

インド仏跡めぐりの途中、激しい耳の痛みに襲われグプタドクターの往診を受けました。治療代、薬代を受け取ってもらえず、お礼に病院を訪問しました。建物は想像していたより立派で掃除も行き届いており清潔な感じでした。先生も看護婦さんもとても親切で真面目な方々で感じました。インドの貧しくて悲惨な光景を見て心を痛めておりましたが、人々の為にアーナンダ病院が奉仕されていることを知り本当に感動しました。「アーナンダ病院医師の説明の言葉解せずも心通ひぬ」心より感謝申し上げます。

私達の学校では石鹸やタオルなどを寄付しました。自分も親に言っていくつか寄付をしました。学校で集まった数はわずかだったのですが、現地の人達が予想以上に喜んでくれたようで良かったです。今の私達日本人の生活から考えると想像もつきません。いかに私達が裕福なのかと思います。

今まで地域社会や学校で行ってきた寄附や募金活動では、実際にその現地の人の声が届かず、活動をしていてどうしても他人事のように感じていました。そのため、「寄附や募金をただやればいいや」という考えでした。しかし、今回のように現地の医師の感謝状が届いたりすると、自分たちが行った活動が現実役に立っているのだと感じました。そして、寄附や募金に對しても、「心を込めて行い、それが相手の心に伝われば、たとえ生活は貧しくても、大切な心の栄養になり心が豊かになる」と考えるようになりました。私達が今回寄付した石鹸やタオルなどが病院で喜んで使われ、少しでも社会福祉に貢献できることをうれしく思います。私達のボランティア活動にも、大きな励ましを頂くと感謝します。

アーナンダ病院の感想

池川 明雄（静岡市）

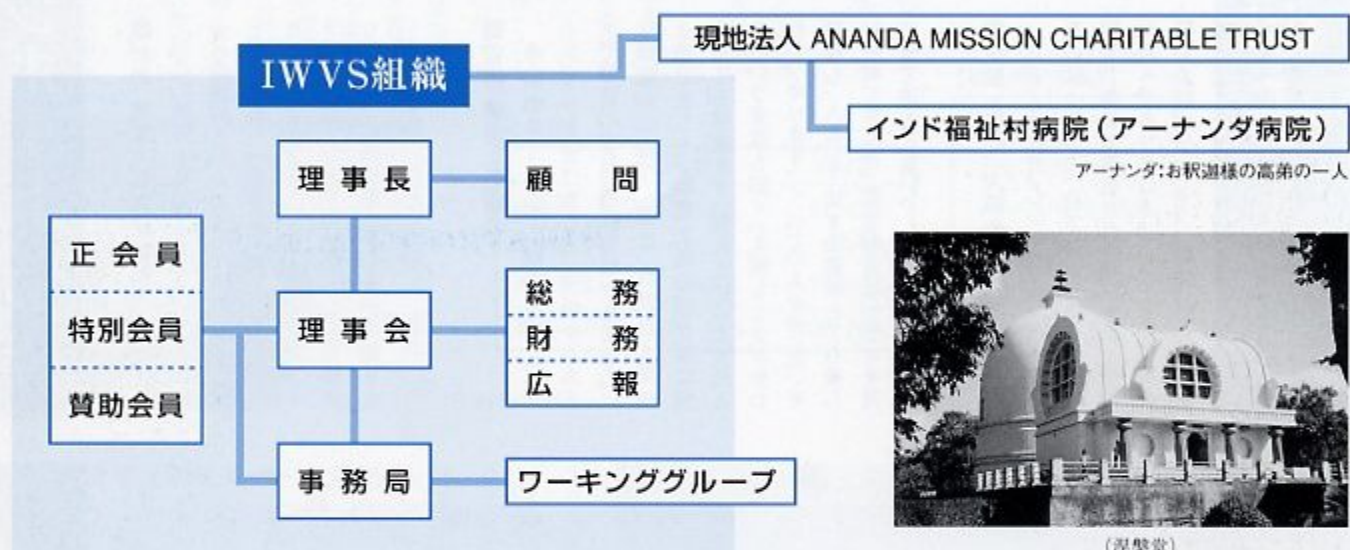
インドの病院に協力して

三高 健太（浜松市立積志中学校前生徒会長）

特定非営利活動法人 (NPO)

インド福祉村協会 (IWVS)

特定非営利活動法人 インド福祉村協会は、民族、宗教を超えて日本とインドの両国民が共通の価値観を共有し、互いに学び合うことを理念として、インド国の医療に恵まれない人々に対して、プライマリ・ヘルスケアを中心とする診療活動と保健衛生活動及び不就学児童らに対する教育活動を行うことによって、インド国の医療の充実及び幼児教育の充実を図り、もって両国の友好に寄与することを目的としています。診療活動としてクシナガラにてインド福祉村病院（アーナンダ病院）を開設、運営を行っています。



入会のお願い

正会員：年会費 5,000円

総会の議決権があります。協会の会報を毎回お届けします。プロジェクトの進み具合、現地の情報を逐次お知らせします。現地宿泊の便宜を図ります。

特別会員：年会費 100,000円(一口以上)

総会の議決権はありませんが、代表一名を正会員として登録します。その他正会員と同様。

賛助会員：年会費 1,000円(一口以上)

総会の議決権はありません。協会の会報をお届けします。

【会費・寄附の支払い方法】

1. 郵便振替 郵便振替用紙を利用し、最寄りの郵便局より手続きを行う。

ご一報いただければ用紙をお送り致します。

郵便振込 (口座番号) 00830-2-65008 (加入者名) インド福祉村協会

募金のお願い!

少しでもあなたの善意を分けて下さい。

インド福祉村協会 (INDIA WELFARE VILLAGE SOCIETY)

理事長／山本孝之 (福祉村病院院長) 顧問／飯島宗一 (元名古屋大学学長)

常務理事／柴田昌雄 (愛知学院大前教授) 理事／高木元昊 (慈専寺住職)

事務局長／村田 智 (ほか)

■発行者 インド福祉村協会 (IWVS)

■発行人 大竹紘一 ■編集協力 文創社

■インド福祉村協会事務局

〒441-8124 愛知県豊橋市野依町山中19-12

TEL:0532-48-1138 FAX:0532-48-2365